

**【別冊】**

# 総務教育常任委員会資料

(平成28年1月21日)

【件名】

- ・ 平成27年度第3回鳥取県総合教育会議の開催結果について（教育総務課）…… 1

教育委員会



## 平成27年度第3回鳥取県総合教育会議の開催結果について

平成28年1月21日  
とっとり元気戦略課  
教 育 総 務 課

昨日、本年度第3回目の鳥取県総合教育会議を開催しましたので、その結果を報告します。

### 1 日時等

- (1) 日 時 平成28年1月20日(水) 午後3時から4時30分まで
- (2) 場 所 鳥取県庁 議会棟3階 特別会議室

### 2 出席者

知事、教育委員会(教育委員長、教育委員、教育長)、有識者委員

### 3 概 要

#### (1) 教育委員会からの報告事項

教育委員会から、「平成31年度以降の高等学校の在り方に関する基本方針(案)」及び「いじめ・不登校等への支援体制の充実」(スクールソーシャルワーカーの増員等)(別紙会議資料1のとおり)について報告がなされた。

#### (2) 「教育に関する大綱」の改定について

昨年7月に策定した「教育に関する大綱」の改定(第二編・平成28年度重点取組施策)について議論を行った。(大綱改定の主なポイント及び改定大綱案は別紙会議資料2-1及び2-2のとおり)

→ 改定大綱案の方向性については、了承いただいた。

#### (3) 委員からの主な意見について

- ・今年夏の選挙から選挙権年齢が引き下げとなるが、本県のすべての高校生が主権者としての自覚・意識を高めるため、公私連携で主権者教育を推進していったらどうか。
- ・企業連携については、一般的な体験学習ではなく、企業に行きそこで抱える課題解決に向けて本気になって考えるような体験をすることで、生徒のスイッチが入る。
- ・学習の習熟を深め、小3・小4での学習の積み残しをつくらないため、家庭に期待する家庭学習の進め方について、わかりやすく保護者に説明する必要があるのではないか。
- ・プログラミングコンテストには専門高校の生徒しか参加していないのが現状である。普通科高校の生徒にも、様々な専門性に触れさせてほしい。
- ・発達障がいのある子どもたちは小さい頃からの教育により一定の改善が見られることから、幼少期からの教育が重要である。
- ・スクールソーシャルワーカーの役割はとても重要であり、人材確保の観点からも養成を進めてほしい。
- ・主体的・協働的に学ぶ子どもたちを育成するため、小中におけるアクティブ・ラーニングを進めていく必要があり、教員のファシリテート能力を高めていく必要がある。

#### (4) 知事総括

- ・改定大綱案の方向性は了承いただいたが、委員からの意見を受けて、発達障がいのある子どもたちへの対策について、今後、教育委員会と協議・調整したい。
- ・スクールソーシャルワーカーの人材確保については、本気で考えていく必要がある。
- ・主体的・協働的な子どもたちを育成するためには、地域との連携も重要であり、企業と連携して探求型学習に取り組んでいる私立学校の好事例を、公立でも取り入れてもらえればと思う。
- ・「平成31年度以降の高等学校の在り方に関する基本方針（案）」において、小規模校の今後のあり方がわかりづらい、小規模校が特色を持った学校に変わることができるのか、今後とも会議の場で検討させていただきたい。

#### 4 今後の予定

今回の委員意見や当初予算の状況等を勘案し、教育委員会と協議・調整した上で、3月中に改定版の大綱を策定する。

#### <参考>有識者委員名簿

氏名	主な所属	備考
浅雄 淳子	鳥取県PTA協議会事務局長	
石原 太一	NPO法人倉吉鴨水館館長	
竺原 晶子	鳥取県ケータイ・インターネット教育推進員	
椿 知夫	公益財団法人鳥取県体育協会常務理事、鳥取県スポーツ少年団副本部長	欠席
福島 史子	スクールソーシャルワーカー、鳥取大学医学部非常勤講師	
山内 晃	学校法人翔英学園米子北斗中学校・高等学校長、鳥取県私立中学高等学校長会会長	
横井 司朗	学校法人鶏鳴学園理事長、全国専修学校各種学校総連合会理事	